令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果

令和８年１０月　日
京都市立深草小学校
校　長　土井　則夫

令和８年４月２３日に、本校６年生１２１名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語・算数の２教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総　合　結　果

国語科は、全国平均を大きく上回る一方で、算数科は、全国平均をほんのわずかですが下回りましたが、全体的には良好な結果だったと言えます。

また、無回答率も国語科・算数科ともに、ほとんどの問題で全国平均を下回っており、自分の考えを言葉や図、式などを使って説明することへの抵抗感はそれほどなく、あきらめずに自分なりに表現しようとする意欲を感じました。

また、児童質問紙調査でも、「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできています」と回答した児童が８０％を上回っており、前向きに学ぼうとしていることがわかります。

今後も、学習に向かう意欲づけや効果的な課題の提示の仕方などを工夫することで、進んで学び続け、生き生きと自分の思いを表現できる子どもが増えていくよう、日々の授業実践を進めていきたいと思います。

国語科より

正答率は、全国平均を大きく上回っていました。

特に、評価の観点「思考・判断・表現」の分野で、正答率が上回っていました。例年のことですが、問題内に使われる資料の情報量は多く、その中から正しく答えるために**必要な情報をうまく読み取り、活用していかなければなりません。**情報をうまく拾い集め、整理することができると、自分の考えももちやすく、表現することにもつながっていきます。記述式の問題の正答率が高かったことからも、日頃の授業で、自分なりの考えをもち、友だちと伝え合う活動を通して、表現力が培われてきた成果だと思います。

だたし、平均正答率は上回ったものの、記述式で正答率が 50%を下回り、無回答も多かった問題もありましたので、引き続き、情報を読み解く力、整理する力、表現する力の向上を目指していきたいと思います。

算数科より

全体としては、どの領域、どの観点で見ても全国平均とほぼ同じ正答率でした。その中で、「測定」の領域では平均を大きく上回り、「変化と関係」の領域では、やや下回りました。

特に、「変化と関係」の領域では、全国平均も低いのですが、単位量当たりの大きさを求めたり、割合の正しい関係図を選んだりする問題で正答率が３５％を下回りました。問題文を読んでも、もとにする量と比べる量の区別がつきにくく、**相互関係がイメージできないまま曖昧に答えている**ことが誤答になる原因かと考えます。何を１００％（もとにする量）として考えるのかを問題文から読み取り、関係図や線分図などに表すことを繰り返すことで、相互関係を理解し、正しい式が導けるようにしていきたいです。

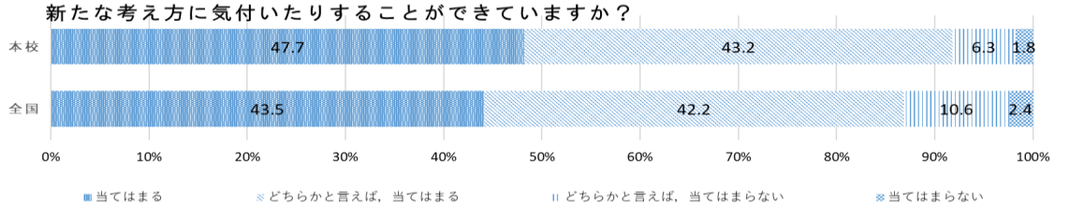
以上のような結果から、学校でも授業を通して改善に努めていきます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより学力は定着していくものです。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。

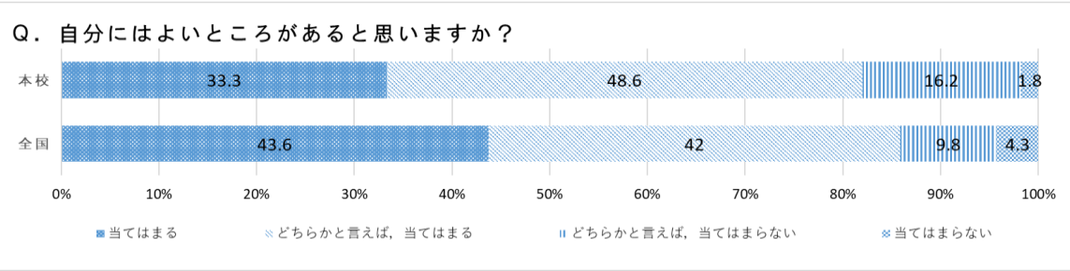
児童質問紙調査から

Q．友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか？



日々の授業の中で、先生の話を聞いて考えたり、板書をノートに書いたりするインプットももちろん大切ですが、友だちに伝える活動や教え合いながら、自分の考えをアウトプットすることで、考えを深めていく活動も大切にしています。話し合い活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した子どもが９０％を超えていることからも、伝え合う活動の大切さを改めて感じました。

Q．自分にはよいところがあると思いますか？



肯定的な回答としては、80%を超えてはいますが、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国平均と比べ10%以上低くなっており、自信のなさが気になるところです。

高学年になるにつれて、自分のことを素直に表現することに恥ずかしさを感じることもあるかと思います。また、自分の言動が認められなかったらどうしようかと周りの友だちとの関係を気にし始めるのもこの時期だと思います。そんな時期だからこそ、互いを認め合い、一人一人のよさを生き生きと表現できる集団を目指して、日々の学校生活を進めていきたいと考えています。

各ご家庭でも、日々の生活の中で、お子様に肯定的なお声かけをお願いいたします。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「互いを認め合い　仲間とともに進んで学び続ける子どもの育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組をすすめています。

日々の授業の様子を見ていると、どの学年も課題に対して前向きに取り組む姿が多く見られます。児童質問紙調査でも、８０％近くの児童が、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答しています。

課題解決の過程の中で、課題に対し、自ら考え、グループや学級で話し合いながら試行錯誤を繰り返しつつ、課題の解決にせまっていくような授業を進めていけるように、今後も授業改善に努め、子どもたちの思考力や表現力を培っていきたいと思います。

一方で、平日、１日当たりの放課後の学習時間が 30 分未満と 18%が、全くしないと 11%が回答していました。また、平日、１日当たりのＩＣＴ機器（スマートフォン、タブレット、ゲーム機等）の利用時間（ＳＮＳや動画視聴）について、２時間以上と回答した割合が 70%近くになっていました。４時間以上の利用が２２％もあり、長時間の使用が気になるところです。限られた時間の中で、どのように時間を使うか、将来的にも大切な力になるかと思いますので、学校と家庭で連携して、計画的な時間の使い方についても働きかけていきたいです。